

ユネスコスクールガイドラインについて

日本ユネスコ国内委員会は、ユネスコスクールガイドラインをまとめています。本ガイドラインをもとに活動したいと思います。

ユネスコスクールとして大切なこと

- ・国内外のユネスコスクール相互間のネットワークを介して、互いに交流相手の良さを認め合い、学び合うこと。
- ・地域の社会教育機関、NPO等との連携などを通じて、開かれたネットワークを築くよう努めること。
- ・校内外における各種研修の充実・活用を図るなど、ユネスコスクールの活動を通じて広く学校外にも働きかけ、我々人類社会が持続的に発展するよう心がけること。
- ・学校経営方針等にユネスコスクールの活動に取り組むことを明確に示し、学校全体で組織的かつ継続的にユネスコスクールの活動に取り組みやすくすること。



- ・ユネスコスクールの活動を自らの学校評価の項目に盛り込み、活動の質の向上に努力すること。
- ・必要に応じ、ASPUivNet加盟大学をはじめとする高等教育機関の支援や協力を得ながら、ユネスコスクールの活動の充実に努めること。

持続発展教育(ESD)推進拠点として大切なこと

- ・持続発展教育(ESD)を通じて育てたい資質や能力を明確にし、自分で、あるいは協働して、問題を見出し解決を図っていく学習の過程を重視した教育課程を編成するよう努めること。
- ・総合的な学習の時間を中心とした教科横断的な指導計画を立てるなど、指導内容を適切に定め、さらに、指導方法の工夫改善に努めること。
- ・持続発展教育(ESD)の推進拠点として、研究・実践に取り組み、その成果を積極的に発信することを通じて、持続発展教育(ESD)の理念の普及に努めること。

「ユネスコスクール子どもサミット」報告②

③ 右京中学校【大牟田の未来を考える】



GTを招いてバリアフリーについて講義を受けたり、車いすやアイマスク体験をした後、実際に車いすを使って学校のまわりを調査して、気づいたことをマップにまとめました。

そして、調査結果を発表する際、市役所や国土交通省の方々をコメンテーターとして招き、自分たちで考えた提言を渡したところ、実際に道路の危険箇所が改善されました。この例から、自分たち一人ひとりが進んでみんなのことを考えて行動することができれば、すばらしい大牟田になるということを発表しました。

④ 銀水小学校【ふみだそう！夢への第1歩】

働くことは自立と社会参加と捉え、自分たちの将来を考えるため、まず、仕事をしていらっしゃる方々をGTに招き、仕事の内容を教えてもらったり、その喜びややりがいについて話を聞いたりしました。

そして、JAXA職員の方に宇宙飛行士の仕事について話を聞いたり、看護師になるために必要な勉強や資質について尊敬する看護師さんに聞いたり、裁判所で模擬裁判を経験したりする活動を通して、みんなが安心して生活できる社会をつくりたいという自分たちの夢を発表しました。

